



東日本大震災から7年

忘れない 被災地は今 まだまだ復興半ば

Sete anos desde o Grande Terremoto do Leste do Japão 11/03/2011

2011年3月11日午後2時46分(日本時間)、史上最大の巨大地震(震度9, 0)史上最大の津波が襲った。特に岩手、宮城、福島の前3県沿岸部の被害がひどく、岩手県の長い海岸部の12市町村は壊滅的被害を受けた。

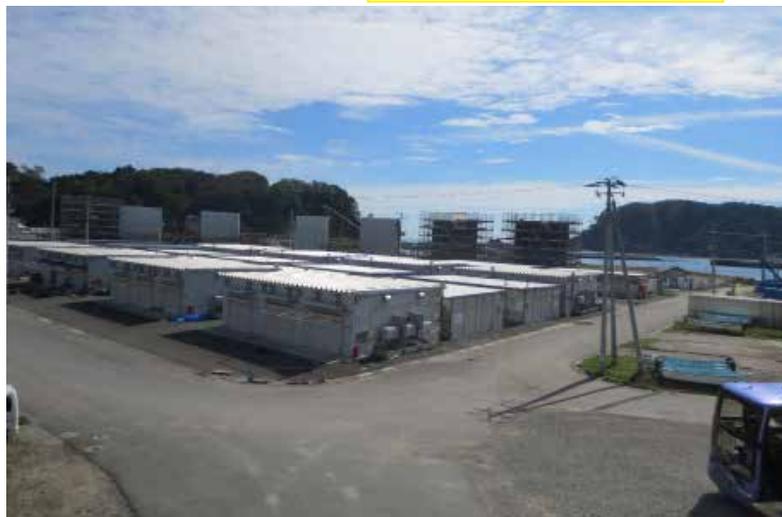
あれから7年過ぎた現在でも、テレビに映し出された悲惨な映像を、忘れられないのは筆者だけではなく、勿論沿岸被災地皆さんの心情を思うとき慰めの言葉も失った。

震災後7年経った2018年3月時点で、岩手県の人的被害は死亡者4,674名、不明者1,116名となっている。

岩手県の沿岸部は壊滅的打撃 **田老町に巨大な堤防を建設中**



震災直後の釜石港



を受けたが、死者数 4,673 人行方不明者数 1,169 人、家屋倒壊数及び火災による被害 24,887 棟となっていた勿論市街地の公共施設、商業施設、道路網など大きな被害が出た。

岩手県まとめ2017年5月現在、町づくりは53%、津波防災施設整備率は60、2% となっております。

各被害地では嵩上げや高台移転などで町づくりが進んでいる。最近の報道によると三陸鉄道の宮古 - 釜石間が来年には開通すると出ていた。

やはり長年使い慣れた鉄道は地域住民には愛着があり、これからの復興へ励みとなる事だろう。

被災地の完全復興を願って、この7年振り返ってみた。

頑張ろうね ! 皆さん・・・

河野太郎外務大臣来伯・歓迎会

5月19日、20日のアルゼンチンで行われる主要20カ国外相会議参加を前に、サンパウロ入りした河野太郎外相の歓迎会が文協貴賓室で行われた。

大臣は日系社会皆様との出会いを大切にしたい。また、ブラジル日本人移民の先輩たちが築いた、絆を大切に守りながら若い人たちとの連携を強化したいと、若い世代の日系人への協力を行っていきたいと述べた。大臣はブラジルから、アルゼンチン、アメリカ、メキシコを訪問する。

写真提供 伊東 信比古 氏



第 12 回 わんこそばまつり

12° Festival de Soba foi Sucesso 08/04/2018

今年も岩手の郷土食として12年前から始めた「わんこそばまつり」が4月8日に開催され約200人がそばを味わった。

前日から出汁をとったり、食器や鍋、お椀、ザルなどを洗ったりして当日に備えた。勿論「ソバ」は日本製、出汁は毎回美味しいと好評を頂いており、もっと美味しくと婦人部員や友人たちに味付きをお願いし、満足いく出汁をと心がけた。

会場には会員はじめ多くの日系人やブラジル人も加わり祭を盛り上げた。神奈川出身の鈴木さん、北海道出身の早川さん、岩手の菊池さんなど多くの方々から、そばも出汁とも美味しかったと感想頂いた。

「わんこそば」の由来は、**花巻と盛岡の起源説**があり、およそ400年前の慶長時代、当時の南部家27代目当主、南部利直が江戸に向かう際**花巻城**に立寄り食事を所望。

「殿様に対して市民と同じ丼(どんぶり)では失礼」との発想から、山海の幸と共に漆器のお椀に一口だけのソバを試しにだしたところ、殿様はこれは旨いと何度もお代わりをした。

その後、市民にも「ソバ」をお椀で振る舞うようになった。



盛岡説は、この地方では、祭事などの際に地主が大勢の村人や客人にソバを振る舞う習慣があった。しかし、100人以上にもなる相手にソバを供する際、通常の作り方では釜が小さいために全ての人にソバが行きわたる前に「のびて」しまう。この為通常の分量のソバを小分けして振舞うようになったと二説がある。

謂れが長くなりましたが、わんこそばの定義は1.「わんこ(お椀)」で食べる。2.「給仕」がつく、3. 本来は湯がきたでの「温かいそば」である。

「わんこそば」の謂れは先輩から聞いていたが調べると、以上の説があり**読者にはなるほど**と思われた人も少なくないと思う。



写真 最後の競技高齢者の皆さんも童心の笑顔



わんこそばは「**どんどんジャンジャン**」と給仕さんの囃子に合わせて競技が行われるようになった。

因みに岩手県には花巻の「わんこそば全日本大会」は、5分間で歴代最高は258杯。2017年11月開催の盛岡の「全日本わんこそば選手権」は15分で競う。

2016年の優勝者井本さん(4連覇)は制限時間を5分間短縮。初出場の小原さん(15分)と競った結果、小原さんは293杯、5分少ない井本さんも293杯とサイトにあった。



岩手県人会のわんこそばは、3分間で競うが今回は新記録は出なかった。第10回目で107杯の新記録をだした三宅みのりさんが73杯。早川量通さん(別競技)で73杯でした。**写真下** 共に73杯の早川



さんと三宅さん

多分、早川さん三宅さんも連れがいてザルそば3杯位食べた後に競技に参加したのではと思います。

こうして第12回のわんこそば祭りはおわりましたが、来年はもっと多くの皆さんに新たな趣向を凝らしてもっと楽しい「わんこそば」祭にしたいと願っております。

請う ご期待

- 3月1日 県連代表者会に会長出席
 10 3月度役員会開催 議題は年間行事の調整、創立60周年 - 式典会場契約済、寄付金、ブラジル側招待状、その他について
 17 21回日本まつり説明会に会長出席
 20 栃沢千秋氏(100才)は、3月18日亡くなられたと身内より報
 4月14 役員会開催
 22 第65回会員交流誕生会開催
 5月6日 14回東北ブロック青年部主催運動会あり
 9 総領事館、日系主要団体にに県人会60周年の招待状を届ける
 12 5月度役員会 主な議題は60周年、日本まつり、6月の集い県

- 人会 継承や活性化について
 14 サンパウロ総領事館より県人会創立60周年記念式典に野口泰総領事出席と電話あり
 19 日本まつり会合、河野太郎外務大臣歓迎会に会長参加
 24 県連代表者会に会長参加

ブラジル岩手県人会創立60周年記念式典

開催費用ご協力者名 (申込者を含む、)内は金額)

Colaboração p/60 anos de Kenjinkai Muito Obrigado !!

千田曠曉(5,000、Hiroaki Chida)、多田孝則マウロ(500, Mauro Takanori Tada)、多田登(500、Nobori Tada)、千田功(300、Isao Chida)、菊池透(300、Tooru Kikuchi)、峰きよ子ソフィア(500、Sofia Kiyoko Mine)、菊地義穂(300、Yoshio Kikuchi)、比嘉カチア(500、Katia Higa)、菊地義治(4,000、Yoshiharu Kikuchi)、藤村光夫(3,000、Mitsuo Fujimura)、梅田洋子イラセマ(600、Iracema Ioko Umeda)、川村益男ネルソン(500、Nelson Masuo Kawamura)、川村ゆりリア(500、Lilia Yuri Kawamura)、及川秀義

(500、Hideyoshi Oikawa)、大志田良子(100、Ryoko Ooshida)、田鎖満(3,000、Mitsuru Takusari)、吉田みちこ(200、Mitiko Yoshida)、和田司(500、Tsukasa Wada)、服部葉子(300、Yoko Hattori)、児玉勲(300、Isao Kodama)、工藤五三郎(3,000、Gosaburo Kudo)、阿部正司(200、Masashi Abe)、久保時男(300、Tokio Kubo)、千葉和枝(1,000、Kazue Chiba)、千葉エリザ直江(1,000、Naoe Elisa Chiba)、久保和子(100、Kazuko Kubo)、唐沢みつこイザウラ(300、Izaura M Karasawa)、工藤五三郎(3,000、Gosaburo Kudo)、前川鮎之助(100、Ayunosuke Maekawa)、昆野トシ子(300、Toshiko Konno)、昆野昭仁ワシントン(300、Washington Akihito Konno)、角館ミルトン(500、Milton Y Kakudate) 30/5/18迄

★お知らせ下さい 会費が60周年寄付のどちらかに5月22日と23日県人会口座にR\$ 100,00振り込んだ方は県人会までお知らせ下さい。

会費納入者名 (敬称略) Anuidade Pago

1月に賛助会員ですが、岡本たかのりさん(広島県の2世)の入会がありました。(田鎖満さんの友人)

2月8日以降、千田功(Isao Chida)、阿部正司(Masashi Abe)、阿部貴司アイレス(Ayres Takashi Abe)、石井克己(Katsumi Ishii)、中島良子(Yoshiko Nakashima)、梶原まさこ(Masako Kajiwara)、

3月 神村敏和リンコン(新・Lincon Toshikazu Kamimura)、神村敏道(新・Toshimiti Kamimura)、峰きよ子ソフィア(Sofia Kiyoko Mine)、昆野敏子(Toshiko Konno)、昆野昭仁ワシントン(Washington Akihito Konno)、佐々木寛一(Kanichi Sasaki)、高橋信男(Nobuo Takahashi)、菊地義治(Yoshiharu Kikuchi)、多田登(Nobori Tada)、多田孝則マウロ(Mauro Takanori Tada)、高橋アリセ(Alice Takahashi)、松井定信(Sadanobui Matsui)、永松通一(Michikazu Nagamatsu)、

4月 及川アルツール(Artur Oikawa)、平野マリア(Maria Hirano)、鈴木金人(Suzuki Kaneto)、鈴木秀人ジョゼ(Jose Hideto Suzuki)、大志田良子(Ryoko Ooshida)、工藤五三郎(Gosaburo Kudou)、平尾宏子(Hiroko Hirao)、黒沢フジ(Fuji Kurosawa)、志賀光(Hikaru Shiga)、小松武(Takeshi Komatsu)、

5月 高橋清(Kiyoshi Takahashi)、児玉勲(Isao Kodama)、伊藤範夫(Norio Ito)、久保和子(Kubo Kazuko)、唐沢みつこイザウラ(Izaura M karasawa)、前川鮎之助(Ayunosuke Maekawa)、

逝去の報 Falecimentos

伊藤 欣子 さん(kinko Ito 故・春野氏夫人一釜石)は、2017年1月26日亡くなったと息子さんから連絡あり



栃沢 千秋 さん(Chiaki Tochizawa, 行年100才、10/7/1917生れ、一関市東山町出身、2/7/1934ブラジル着)は、3月18日天寿を全うされた



と娘さんのルシアいずみさんから電話あり。県知事からの百寿者表彰状が届いている。

小原 アヤ さん(Aya Ohara, 行年96才、遠野市)は、去る2月亡くなられたと司法



書士(日系人)から書面で知らせあり
 アヤさんは旅行好きで、県連主催のふるさめぐりでは、90才過ぎまで参加していた。

武田 栄一さん(Eiichi Takeda, 行年79才、二世)は、昨年11月28日に病死した



と弟のパウロさんが来館。父(貞吉、ていきち)は大正10年4月移住で県人では大正7年移住の、小野寺美代治氏について2番目に早い移住者。栄一さんは貞吉氏の長男

鈴木直志 さん(Naoshi Suzuki 行年67才、元テレビ岩手アナウンサー、ブラジル県人会賛助会員)は、5月6日脳溢血のため逝去されたと吉田恭子会長より知らせあり。



県人会では訪岩の都度お世話になった。

皆様のご冥福を祈ります。

急逝 鹿田 明義 氏(81才、リオ州日伯文化体育連盟会長、長野出身)は、5月27日入院中急逝されました。



鹿田氏には、県人会創立50周年(2008年)のおり、杉村濬第三代公使の墓碑改修に伴い、多大なご指導とご協力を頂き無事立派な墓碑が完成した事に感謝しております。ご冥福を祈ります

第 65 回 会 員 交 流 誕 生 会

岩手県知事から百寿者 高齢者「賀詞」表彰

65° Confraternização e Homenagem 100 anos (Hyakuju) e 75 anos (Gashi)

4月22日、岩手県人会恒例の「第65回回会員交流誕生会」が正午から行われた。初めに多田副会長の司会で1分間の黙祷を先亡者へ捧げ御霊への敬意を表した。

続いて千田会長は、去る8日行われた「第12回わんこそば祭り」を報告。将来の県人会継承や活性化を考える集いを6月17日に行う事への協力をお願いした。

多田孝則マウロ副会長から、自身の仕事関係で日本にて就労する旨を報告。ある期間県人会を留守にしますと報告があった。



達増拓也岩手県知事から表彰の、百寿者(100才)祝状を千田会長が代読。栃沢千秋さんの代理で、娘さんのルシアさんに祝状と記念品が伝達された。



栃沢さんは表彰を前に去る3月18日逝去された。氏は一関市東山町出身でサントス丸で1934年7月4日サントス港に着いた。着伯時には父 養治、母 かしく、祖母 みどり、叔父 喜八郎、姉 よしみ、千秋、弟 文人、妹 敬子さんだった、初入植地はモジアナ線オルラジャで、幾多のご苦勞をされた事であろう。また、氏は、サンパウロ市郊外のサントアマール地区にいた頃は県人移住者の呼寄人でもあった。栃沢氏は、みちのく俳句会を主宰され多くの方々と俳句を通して、日系コロニアの文学界でも活躍されていた。

続いて平尾宏子さん(盛岡出身)に、県出身者で75才になられた方に知事から賀詞と記念品が伝達された。平尾さんは1965年夫の健さんと来伯された。

パラナ州はピライドスル在の千葉和枝さん、サンパウロ市内の千田輝海さんには祝状



を郵送したり直接届けた。

食事会は、いつも月曜日のカラオケを楽しむ会でお世話になっている児玉勲さんの音頭で乾杯。皆さん持ち寄り料理などで食事をしながら懇談の一時を過ごした。



食事が一息つき、皆さん楽しみのビンゴが行われ、出た数字が5つ出れば賞品が当たる、一枚の番号札で商品数により他の人にも当たる仕組み。ビンゴの合間に石川百合子さんの盆踊りも行われた

続いて1月から4月生まれの誕生会では、県人会が用意したケーキを囲んでパラペンスの歌で祝った。おめでとうございます。ケーキを皆さんに配り、気持ちだけの記念品が配られた。

またのど自慢者がカラオケを楽しんで、楽しい一日を過ごした。



14° GRUPO THOHOKU UNDOUKAI 1

東北ブロック北海道青年部主催・第14回運動会



秋晴れの5月6日、東北ブロック・北海道青年部主催の第14回運動会が Vila Mariana 区の Metro Santa Cruz 駅近くの Colégio Arquidiocesano で行われ老若男女 1,000 人以上が、19 のプログラムを楽しんだ。(プログラムにより複数回の競技もあった)

今年の担当県は青森県(昨年の担当は岩手県)が受け持ち、例年通り場所や賞品提供交渉など行われた。

始めに両国歌斉唱、青森担当県の開会の挨拶、全員で健康体操が行われ、Milho(トウモロコシ)を箸で5粒拾い競技、ビスケット食い、

10才までの50m、子供の100m、8才以上の袋



競技、二人3脚、子供の数字合わせ、高齢者のボール送りなど午前中の競技があった。

入場者は一人R\$ 5.00、又は清掃用品のまたは同額の寄付を行う。これらの金額や清掃用品は慈善福祉施設「こどもの園」へ贈られた。

また、会場にはバザー店や食べ物店が所狭しと並んでいた。昼休みや必要に応じて、金券を買いそれぞれが欲しい品物を買って求めている。

午後の部は、太鼓演奏やストリートダンスが行われ開幕。

大人の嫁や舅探し、6才までの買物、6才以上の卵送り(実際にはピンポン玉)、高齢者の封筒拾い、子供から大人まで4組のリレー、子供や大人の綱引き、子供さん方の白組・紅組の玉入れ、玉入れ競技など行われた。



こうして運動会は家族全員が楽しく過ごし家路についた。

最後に若い人たちのエネルギッシュな活動に大きな拍手を送りたい。



来年も宜しく・・・

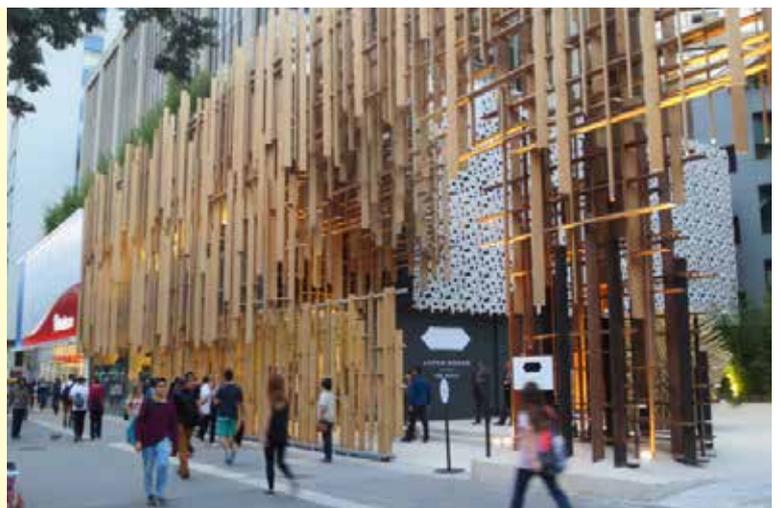
話題 ジャパンハウスに 1年で77万人を記録

新聞報道によると、昨年5月6日にロンドン、ロスに先駆けてパウリスタ大道路に開館したジャパンハウスが1周年を迎えた。

開館して、この1年間の入場者は約77万人と報じられた。当初の年間目標は13万6000人を試算していた。

予想以上の入場は、なんといってもパウリスタ大通りの地の理と、目を引く日本文化紹介などの企画。に、ブラジル人の日本文化ファンが多い事が伺われる。

日本移民及び日系人がブラジル人に浸透している証しでは。



皆で盛り上げよう 岩手県人会創立60周年記念式典 Dia 26 de Agosto de 2018 Fundação de 60 Anos de Iwate kenjinkai do Brasil

8月26日(土曜日) 午前10時より創立60周年記念式典

場所 Auditorio Sindicato dos Eletricitários de São Paulo
Local Rua Thomaz Gonzaga 50 Liberdade São Paulo SP
ブラジル岩手県人会と同じ通りです。

8月25日(土曜日) 18時より

慶祝団歓迎交流会 場所 ブラジル岩手県人会会館にて
Confraternização de Comitiva dia 25/8/2018
A partir das 18 horas

ブラジル岩手県人会は、1959年10月11日全伯的に岩手県出身者に呼びかけ発足してから、60年の歳月が経とうとしている。(実際には59年であるが準備期間を加えて)

先人県人たちによって、同郷者や親睦を旨に或いは母県岩手との繋がりがや交流を重ねて発展、発会以来60年の歴史を刻んできた。

最初の県人移住者一関の小野寺美代次氏の着伯以来100年、日本移民110年の記念すべき年に、創立式典を開催できることは大きな意義があると思います。

既に式典招待状は発送済みですが、どうか県人皆様やご家族皆さんの参加をお願いし記念式典を盛り上げようではありませんか。何卒宜しくお願い申し上げます。

母県からの慶祝団参加予定者 (敬称略)

達増拓也岩手県知事、佐々木順一県議会議長、県庁関係者。
盛岡市 谷藤裕明市町夫妻、遠野市 本田敏秋市町夫妻、関係者2名、金ヶ崎町 副町長、町議会議長、山田町 議員 菊地公明、岩手県郷土芸能団一行 10名、ブラジル県人会賛助会員 吉田恭子会長ほか 10名、(酒)南部美人 久慈浩介社長(鏡割り用酒と樽の提供)、また、海外岩手県人会からの参加が見込まれます。

ふるさとだより ⑬ 記事提供 岩手日報社 Web News Noticias de Iwate ken - Iwate Nipo

教訓刻む津波記念碑 野田の公園、鎮魂願い11日に完成

過去の教訓を生かし命を守る行動を一。東日本大震災発生から7年に当たり野田村津波記念碑建立実行委(広内洋治会長)は11日、同村野田の十府ヶ浦(とふがうら)公園内に津波記念碑を完成させる。村を挙げて作った初の震災記念碑で、教訓を記した石碑と、石板3枚を重ねたような門状の枠を一体型の「扉」に見立てたモニュメント。鎮魂と復興へと力強く歩む村民の決意、教訓を将来に継承する。

「東日本大震災大津波記念碑～二度と村民の命を失わないように～」と刻んだ記念碑は、同公園南側の海を望む「はたてんぼうだい」付近に建立した。白御影石製で、高さは3・11メートル。石板は村中心部を守る防潮堤、国道45号と三陸鉄道の鉄路、同公園の盛り

土の「三つの堤防」を象徴する。

震災の津波で同村では37人が犠牲となり、447戸が全壊・大規模半壊した。村広報などで村民から碑文を公募し▽地震があつたら津波を考える▽津波のときは高台に避難する▽避難したら絶対に戻らないーなどの五つの教訓を記した。【写真=3月11日に完成する野田村の東日本大震災大津波記念碑。海と被災した村中心部が見える場所に震災の教訓を残す】(2018/03/03)



東日本大震災、 東京で政府追悼式

復旧半ば「もう7年、まだ7年」政府主催の追悼式で、祭壇に向かい式辞を述べる安倍首相=11日午後2時48分、東京都千代田区の国立劇場(代表撮影)2018/03/11

2万人を超える犠牲者を出した東日本大震災は11日、発生から7年を迎えた。被災地の復旧は進みつつあるが、全国で約7万3千人が今なお避難生活を送る。「もう7年か、まだ7年か」。被災者たちは答えの出ない思いを抱え、一日一日を歩む。東京都千代田区の国立劇場では政府主催の追悼式が開かれ、遺族ら出席者は午後2時46分



の地震発生時刻に合わせて黙とうし、「あの日」に失った命へ思いをはせた。追悼式には、岩手、宮城、福島の前被災3県の遺族のほか、秋篠宮ご夫妻、安倍晋三首相らが参列した。警察庁によると9日現在、死者は1万5895人に上り、2539人の行方が分かっていない。

満開を迎えた岩手公園の桜

20日16時 (2018.04.20)

盛岡地方気象台は20日、盛岡市内丸の岩手公園の桜（ソメイヨシノの標準木）の満開を観測した。平年より5日早く、昨年より4日早い。気温が上昇した同日は、夕方から早くも満開の木の下でブルーシートを広げるグループや、写真撮影をする観光客らでにぎわっていた。



達増知事、岩手の魅力PR 県、

ニコニコ超会議出展

金野貴明さん（右）との対談やアニソンの披露を通じ、岩手を発信した達増知事（中央）＝千葉市・幕張メッセ 2018.04.30

【東京支社】県は28、29の両日、千葉市の幕張メッセで開かれた大規模イベント、ニコニコ超会議2018に出展し、達増知事がアニメソング（アニソン）を披露するなどして本県の魅力をアピールした。

5年連続の出展。29日は、県のインターネット番組をブースから生放送した。一関市出身で、アニソンのCDを出すなど活躍しているアーティスト兼プロデューサーの金野貴明さんと対談した達増知事は、得意のアニソンを何曲も披露し、盛り上げた。金野さんは「岩手は素晴らしい

い県。みんな一緒に頑張っていこう」と呼び掛けた。

ブースでは、3月発売の「コミックいわてなななっ」の販売、本県出身の漫画家による漫画実演、漆文化や国際リニアコライダー（ILC）誘致の紹介などが行われた。



「津波ここまで」刻む石碑

大船渡、震災7年2カ月



地域住民と真新しい記念碑を囲み、震災の教訓をかみしめる大畑信吾さん（中央）＝10日、大船渡市赤崎町（2018.05.11）

東日本大震災で長男の力さん＝当時（43）＝を亡くした大

船渡市赤崎町の大畑信吾さん（81）は自宅近くの県道沿いに津波

到達の記念碑を建て、震災から7年2カ月を前に10日、近隣住民と囲んだ。「二度と繰り返してはいけない。津波が来たら高台に逃げてほしい」と教訓を訴える。

「ぴちゃぴちゃと、ここまで津波が来たんだ」。大畑さんは、あの日を振り返る。高さ約1.7メートルの真新しい記念碑は「高台に逃げろ」「津波がここまで来た」と刻む。

大船渡湾から北西に2.7キロの県道大船渡綾里三陸線沿い。付近は交通量が多く、子どもたちが登下校に使う。メッセージには分かりやすい言葉を選んだ。

同市大船渡町の及川正己さん（77）はその日、義父の理容店の新装開店初日を迎えるはずだった。津波襲来の報を聞き、会社員だった及川さんは背広や母の着物を持って高台へ。津波が須崎川を逆流し、市街地は水に覆われた。

揺れない「遠地津波」のチリ津波は、引き波も特徴だった。同市末崎町の末崎（まさき）地区公民館長・新沼真作さん（75）は当時、高台の家から海の水が引き、約50分後に押し寄せる津波を見た。「引き波で養殖棚が流され、岬にぶつかって海底に沈んだ」と津波のエネルギーに驚いた。

東日本大震災は、この記憶の生かし方が明暗を分けた。60年に実家の自宅兼店舗が被災した同市大船渡町の上野直和さん（74）によると、60年はJR大船渡線よりも山側の被害が比較的軽微だったが、11年の震災は軽々とその「ライン」を越えた。

二つの津波を目の当たりにした住民は、口々に高台避難の重要性を説く。震災で再び自宅が被災した及川さんは生死を分けたのは平時の備えと強調。「普段訓練に参加しなかった人が多く亡くなったと思う。まず逃げる『津波てんでんこ』が基本」と教訓を伝える。



過信捨て高台へ チリ津波 58年、教訓刻む

チリ地震津波被災直後の大船渡市大船渡町の市街地（大船渡市所有）（2018.05.24） 1960（昭和35）年に発生したチリ地震津波から24日で58年。国内最多53人が犠牲となった大船渡市で被災した市民は「材木をかき分けて泳いだ」「振り向かず逃げた」と鮮明な記憶を持つ。2011年に見舞われた東日本大震災では、教訓から強めた平時の備えが生きた一方「ここまで津波は来ない」という過信で失われた命もあった。2度の大津波を経験した市民は、各自が一目散に避難する「津波てんでんこ」の重要性を口にする。

南米チリで発生した巨大地震から約22時間後の24日未明。日本沿岸に津波が襲来。市民は揺れを感じない津波に襲われた。チリ地震津波の到達地点を示す歩道のプレート。市民に当時の教訓を伝える＝23日、大船渡市大船渡町





気仙に初夏、一番茶青々

陸前高田で摘み取り

陸前高田市の「北限の茶を守る気仙茶の会」（菊池司会長）は27日、同市内4カ所の茶畑で一番茶の茶摘みを行った。会員や大船渡東高の生徒、地域住民らが茶の文化や栽培に理解を深めながら交流した。

同校農芸科学科食品製造班の3年生3人を含む約30人が参加。同市米崎町の茶畑では、腰に籠を下げて唱歌「茶摘み」を歌い、青々とした新芽を摘んだ。

同校の小沢乃綾（のあ）さんは「会の方に教えてもらい楽しく作業できた。先輩たちが気仙茶を使った食品を作っており、自分たちも活用を考えたい」と汗を拭った。

青々とした新芽を摘み取る参加者 （2018.05.28）

